

地域と大学を結ぶ広報誌

# 城西

Vol. 10  
2014.10

  
WAW! Tokyo 2014  
World Assembly for Women in Tokyo  
shine weeks

Shine Weeks Event at Sa



ニュース

国際シンポジウム

## 「女性の方で地域が輝く」

ニュース — 秋季 学位記授与式・入学式  
秋空高く 晴れやかに門出迎え  
白衣式2014  
薬学部新入生 プロへ第一歩踏み出す

# 「女性の力で地域が輝く」

国際シンポジウム

2014.9.16

## 本学と埼玉県主催

本学と埼玉県が主催して国際シンポジウム「女性の力で地域が輝く」が9月16日、清光ホールで開かれました。政府主催の「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」(World Assembly for Women in Tokyo)の地方展開の一つ。県や女性団体の関係者、地域の方々、教職員や学生計約500人が、世界の第一線で活躍する女性リーダーによる貴重な話に熱心に耳を傾けました。

本学のシンポジウムには、米ブルッキングス研究所シニア・フェローのミア・ソリス氏とポルトガルのシャンバリモ財団理事長のレオノール・ベレーザ氏が参加しました。当日は開会前に起きた地震の対応のため急きょ欠席した上田清司知事のあいさつ文を福島勤・県民生活部長が代読。「(地方イベントを)ぜひ先進県の埼玉県で開いてほしいと国から話があり、本県が誇る女性学の権威である水田宗子理事長に共催開催をお願いしたところ快諾をいただいた」と開催の経緯を紹介しました。また、水田理事長は「上田知事と大勢の男性教職員の理解と協力で、城西の女性は輝いています」とあいさつしました。



水田理事長のあいさつ

## 世界の女性リーダーが講演

講演では、日本の対外経済政策の専門家であるソリス氏が「女性の地位向上に果たす地方政治と地域コミュニティの役割は大きい」と強調。また、ポルトガルの保健大臣などを務めたベレーザ氏は「人口の半分を占める女性には素晴らしい才能があるのに生かされていない」と語りました。

講演後の学生たちの質問に対し、「企業に入ったら良き同僚、良き先輩を見つけることが大事」(ソリス氏)、「自分自身に制限を加えてはならない」(ベレーザ氏)などとアドバイスを贈りました。



質問に答えるソリス氏(左)とベレーザ氏

### 目次

- 02 [ニュース]  
国際シンポジウム  
「女性の力で地域が輝く」
- 03 [ニュース]  
秋季 学位記授与式・入学式  
秋空高く 晴れやかに門出迎え  
白衣式2014  
薬学部新入生 プロへ第一歩踏み出す
- 04 [ニュース]  
「北坂戸にぎわいサロン 城西大学」  
オープン  
「トビタテ!留学 JAPAN」  
間祐太郎さん 1期生に
- 05 [展覧会]  
「河上恭一郎ガラスの世界」展開催  
[シリーズ] 浮世絵
- 06 [ニュース]
- 07 [シリーズ] 先輩訪問  
修紅短期大学学長 千葉正さん
- 08 [シリーズ] 学生互版ワイド  
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [図書館だより] [ニュース]
- 11 [エリア紹介]  
坂戸市 坂戸の逸品を全国にネットで販売  
日高市 ひだかワンダーウォーキング  
東武線沿線情報 東上線のお得なきっぷ  
「小江戸川越クーポン」!

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙

国際シンポジウム「女性の力で地域が輝く」は、県や女性団体の関係者、地域の方々、教職員に加え、5学部・短大の学生で清光ホールを埋め尽くしました。世界の女性リーダーによる力強いメッセージと積極的な学生たちの質問で、会場は熱気に包まれました。



# 秋空高く 晴れやかに門出迎え

秋季 学位記授与式・入学式

2014.9.19

## 日本と世界のために手を取り合って——水田理事長



水田理事長は入学式に臨んだ留学生たちの出迎えを受けました

爽やかな秋晴れにめぐまれた9月19日、秋季の学位記授与式と入学式が、清光ホールで行われました。この日、112人が城西を巣立ち、9カ国からの交換留学生ら88人が新たに城西の仲間になりました。内訳は中国51人、マレーシア18人、ハンガリー9人、韓国3人、ポーランド3人、タイ、スリランカ、チェコ、スロバキア各1人で、チェコとスロバキアからは初の受け入れとなりました。

森本雍憲学長から卒業生代表に学位記や卒業証書が授与さ

れた後、新入生が紹介されました。水田宗子理事長は式辞で卒業生と新入生に向けて「これからの日本と世界のために、お互いが手を取り合って生活を充実したものにしてほしい」と呼びかけました。また、森本学長は告辞で「高い志と信念を持って、大いに努力してそれぞれの目標を達成してください」と語り



答辞を述べた原田美穂さん

来賓の駐日ハンガリー大使館のユハース・ギョルギ参事官らの祝辞に続いて、上田清司・埼玉県知事やツイリル・コザチエフスキ駐日ポーランド大使のお祝いメッセージが紹介されました。

卒業生を代表して原田美穂さん(薬学部薬学科)が、先日の広島県での大雨被害に触れ「困難に立ち向かう人々を助けることができる医療人になれるよう努力していく」と答辞。新入生を代表して許書雯さん(現代政策学部)は「城西大学と私たちの国が強い絆で結ばれるよう、私たち留学生が懸け橋となれるよう努力していきたい」と宣誓しました。

白衣式2014

2014.7.8

## 薬学部新入生 プロへ第一歩踏み出す

薬学部の新入生503人を対象にした「白衣式2014」が7月8日、清光ホールで開かれました。従二和彦学部長が白衣式の趣旨説明をした後、水田宗子理事長、森本雍憲学長、従二学部長が、大島萌さん(薬学科)、村松弘樹さん(薬科学科)、箕輪田祝子さん(医療栄養学科)の学生代表の肩に白衣をかけました=写真。

水田理事長は、白衣で真っ白に埋まったホールの新入生に向かい、「皆さんがプロフェッショナルの一員としての第一歩を踏み出すことに感動しています。新しい出発である今日の日を忘れることなく、初心として持ってほしい」と呼びかけました。これに対し、新入生を代表して薬学科の小山真司さんは「私たちは、これからの学生生活を通して、自分自身を鍛え、技能を磨き、弱者を助け、強い責任感を持って、我が国の医療を支える人材となることを誓う」



と力強く宣誓しました。

白衣式:白衣式に相当するセレモニーは1993年、米コロンビア大学医学部で、白衣授与式として開催されたことが始まりとされる。当初、このセレモニーは、医学部や薬学部、歯学部、看護学部など医療系の学部で行われていたが、現在では全米の100以上の医療系の学部で、カナダやイギリスなどではヘルスケアの職業に携わる人材育成の学部にも広がっている。

ニュース

「北坂戸にぎわいサロン 城西大学」オープン

## 学生と住民 学んで遊んで地域活性へ 演劇公演、留学生と文化交流

北坂戸駅周辺のにぎわい再生と地域の活性化を目的とした「北坂戸にぎわいサロン 城西大学」が、空き店舗を利用してオープンしました。サロンは、埼玉県エコタウンプロジェクトに選定された坂戸市の取り組みの一つで、自治体と大学、地元自治会が協働して太陽光発電の売電収益をまちづくりに活用していこうというもの。駅東口の城西大学のサロンと同じく、西口では東京電機大学が同様のサロンを運営しています。



城西大学では、サロンを学生と地域住民と一緒に学び合いながら、にぎわいを創出するためのスペースと位置付けています。大学のゼミやサークル活動で利用されているほか、地域の人たちも自由に活用することができます。

「トビタテ!留学JAPAN」

## 間祐太郎さん 1期生に ロンドンで薬学研究

企業の寄付を財源として新設された海外留学の奨学金制度「トビタテ!留学JAPAN」の1期生として、薬学研究科博士課程(4年制)3年、間祐太郎さんが選ばれました。

この制度は「グローバル人材育成コミュニティ」に参加する企業からの支援により、産業界や世界で活躍できる人材の育成を目的に今年度創設されたもので、全国約1700人の応募者の中から、企業の人事・採用担当者らの面接を経て300人余りが1期生として選出されました。

7月下旬に文部科学省で全体の壮行会が行われました。間さんは英国のロンドン大学薬学校に半年間留学し、薬剤学の世界的権

威のハドグラフト教授の指導の下、皮膚からの薬物送達に関する研究活動、論文作成に取り組んでいます。間さんはこれまで、マレーシアの姉妹校との交換留学プログラムに参加し、3週間にわたるマレーシア国立病院での薬学研修を経験したほか、薬学部内で開かれるイングリッシュカフェに参加し、英語力を磨いてきたことなどが、今回の選考につながったと思われます。間さんは選出されたことに感謝し、「研究者として、医療人として能力を伸ばせるよう精進していきたい」と話していました。



公演後にキャストと市民が意見交換



第2回目は漢字クイズで盛り上がり

威のハドグラフト教授の指導の下、皮膚からの薬物送達に関する研究活動、論文作成に取り組んでいます。間さんはこれまで、マレーシアの姉妹校との交換留学プログラムに参加し、3週間にわたるマレーシア国立病院での薬学研修を経験したほか、薬学部内で開かれるイングリッシュカフェに参加し、英語力を磨いてきたことなどが、今回の選考につながったと思われます。間さんは選出されたことに感謝し、「研究者として、医療人として能力を伸ばせるよう精進していきたい」と話していました。



留学の豊富を語る間さん

展覧会 実用品からオブジェなど200点

## 「河上恭一郎ガラスの世界」展開催



水田理事長に作品の説明をする河上さん(左)

現代を代表するガラス作家の一人、河上恭一郎さんの作品を紹介する特別展「河上恭一郎ガラスの世界——ガラスに心を癒すかたちを求めて半世紀」が7月9日から8月9日まで、水田美術館で開かれました。

7月8日に行われたオープニングセレモニーで水田宗子理事長は「私は以前から先生の作品に魅せられてきました。城西の自然の中に先生の作品を置いたら素晴らしいのではないかと思います、お願いしたところ気持ちよく受けていただき心から感謝しています」とあいさつ。美術館を設計した米国の建築家、スニール・ボールドさんも交えてテープカットをしました。

1933年、千葉県に生まれた河上さんのガラスとの縁は、曾祖父までさかのぼります。明治政府による産業化政策として設立された品川硝子製造所で働いた曾祖父は、河上さんの祖父にガラス組成の調査を伝授。その祖父から影響を受け、河上さんはガラスに興味を持つようになりました。東京芸大工芸科図案部を卒業し、松下電器産業(現パナソニック)で広告デザインを、保谷硝子でガラス器のデザインを手がけた後、創作活動に専念してきました。河上さんはレセプションで二男が城西大OB(硬式野球部)であることを紹介した上で、「静謐な空間の中に多くの作品を陳列していただき光栄に思います。ワークショップで、ガラスの楽しさに出会っていただきたい」などと感謝の言葉を述べました。美術館の3会場では、グラスや皿など実用品からさまざまな羅漢像、現代的なオブジェなど約200点を展示。訪れた多くの人たちの目を楽せました。

### シリーズ

## 浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創業者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえぬ歴史の懐かしさが感じ取れます。当時の人物や風俗などが、生き生き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

### 『見立石山寺紫式部図』 菱川師宣

満月の晩、窓辺で外を眺める女性。その前には硯箱と冊子が置かれ、楼閣の周囲には墨と淡彩による水辺の風景が広がっている。紫式部が琵琶湖のほとりの石山寺で、月を眺めながら『源氏物語』を執筆したという伝承を絵画化したもので、この画題は、肉筆画、版画を問わず好んで描かれた。本作品では紫式部を当世風の美人にやつしており、片膝を立てて脇息にもたれる姿は、師宣や菱川派の作品にしばしば見られる。

菱川師宣は安房出身の江戸時代の浮世絵師。万治(1658～1661年)・寛文(1661～1673年)ごろに江戸に出て、肉筆画や版画、特に版本の挿絵を次々に制作し、浮世絵の新領域を開拓した。水田三喜男先生は同郷の師宣に惹かれ、学生時代から浮世絵の収集を始めたと言われる。



肉筆画／絹本着色(37.1㌘×52.6㌘)／江戸時代(17世紀末)

## ニュース

## ハラール共同事業体発足

# イスラム圏へ 化粧品販路拡大

## 本学・埼玉県中心に

埼玉県や本学が中心となってハラール化粧品の開発やイスラム圏への販路拡大を進める共同事業体が発足しました。



化粧品とハラールに詳しい杉林堅次副学長=写真=によると、県内には化粧品関連企業が約250社あり、業界大手の資生堂やコーセーの生産工場もあるといいます。また、昨年の県内の化粧品の生産高は1965億円で、2年連続全国1位となっています。

しかし、国内の化粧品市場は飽和状態で県内の生産高も減少傾向にあります。このため、県では高品質で人気の日本製品のイス

ラム圏への販路拡大を支援することになりました。ただ、イスラム圏ではハラールと呼ばれる厳しい商品規制があり、食べ物のほか、化粧品なども対象となっています。

県が6月に開いた研修会では、杉林副学長が「ハラールとは何か、そしてハラール化粧品の概念と可能性は」と題して講演しました。杉林副学長は「ハラールの概念は日本のJASやJIS規格のようなもの、ムスリムの考え方や生活様式を一度知ってしまえば礼節を重んじる我々日本人には比較的わかりやすい基準です。また、日本の化粧品の人気は大変高く、ハラール基準をクリアした、もしくはムスリムフレンドリーな化粧品が世に出てくれば、彼女たちに受け入れられることは確実です」と話しています。すでに、県内の化粧品会社の数社が本学と共同で研究開発を行う方向で準備を進めています。

ハラール:イスラムの教で許された「健全な商品や活動」の全般を意味する。食品だけでなく、化粧品や医薬品、介護用品、金融などさまざまなサービスにも適用される。イスラム教徒にとって安全な生活をするためのガイドラインであり、なくてはならない基準であるが、国や地域によって基準が異なる場合がある。

## ロムアルド・デル・ビアンコ財団と協定締結

2014.7.2

## イタリアの財団と学術交流

法人本部は7月2日、イタリアのロムアルド・デル・ビアンコ財団と学術交流協定を締結しました。今後、本学とイタリアとの間で具体的な交流がスタートすることになります。

同財団は1998年にフィレンツェに設立され、異文化交流の促進に力を注いでいます。今回の締結には、ローマ・ギリシャ考古学者の青柳正規文化庁長官に尽力をしていただきました。

協定締結に先立ち、水田宗子理事長は「協定締結を光栄に思います。国際交流活動の一環として、これを機にイタリアの大学と



協定書を交わすパオロ会長(左)と水田理事長。中央は青柳長官

も積極的な交流を推進したいと思います」とあいさつ。同財団のパオロ会長も「温かく迎えていただき、心より御礼申し上げます」と述べました。また、青柳長官は「今後は双方が交流を深め、積極的な活動を行うことを期待します」と語りました。

## ヤンゴン外国語大と協定締結

2014.7.1

## 日本の大学で本学が初

本学は7月1日、ミャンマーのヤンゴン外国語大学と学術交流協定を締結しました。同大が日本の大学と学術交流協定を結ぶのは初めてのことです。

森本雍憲学長を団長とする訪問団がミャンマーを訪れて締結しました。本学は2013年10月に、かつて日本で勉強したミャンマーの元留学生たちの同窓会組織であるMAJA(元日本留学生協会)と連携協力協定を結んでおり、今回の学術交流協定もMAJAとの結びつきによって実現しました。また、今年は日本とミャンマーが外交関係を樹立して60周年の記念の年に当たり、今回の調印式はその記念事業の一つとして在ミャンマー日本大使館から認定されました。

調印式では森本学長が「今回の協定締結により、両国の懸け橋となる人材を育成し、両大学で教育・研究面の交流を進めていきたい」とあいさつしました。これを受け、ヤンゴン外国語大学のルイン・ルイン・ソー学長も「今回初めて日本の大学と協定を結ぶことができ大変光栄です。両大学にとって実のある交流を深めていきたい」と述べました。

## 先輩訪問

各界で活躍するOB、OGを紹介する「先輩訪問」。今回は岩手県一関市にある修紅短期大学の千葉正学長(60)を大学に訪ねました。

# すぐれた社会人になる前に 豊かな人間性を

修紅短期大学学長 千葉正さん (1976年経済学部卒)



——学生時代に打ち込んだことはなんですか。

「系列の一関修紅高を卒業して最初は拓殖大学に入ったんです。高校時代はインターハイや国体にも出たバレーボール部にいたんですが、拓大はバレーボールに関係なく入った。ところが、夏休みに城西に入ってバレーボールをやっていた高校の同級生に誘われたんです。城西で一緒にバレーボールやらないかと。やっぱり悶々としていたんでしょうね。親には内緒で編入試験を受けて入りました。歴史と伝統のある大学から移ったので、親には怒られましてね。しぶしぶ認めてもらいました。だから大学時代はバレーボールざんまいでした。当時は関東リーグの8部でしたが、キャプテンを務めた4年時には4部まで昇格しました。その後、後輩たちが2部まで上げてくれたときはうれしかったです」

——教育の道に進まれた理由はなんですか。

「教員免許は持っていましたが、城西を出てから1年間は民間会社で営業をしていました。ところが、正月に高校の恩師と飲む機会があって、戻ってこないかと誘われたのがきっかけです。『女子バレーボール部を強くしてくれ』と理事長に言われ、2年目に高校から短大に移りました。チームを持って3年目で北奥羽(北東北3県)大学リーグで優勝し、その後17連覇や全国私立短大体育大会では数回の優勝、準優勝を挙げ、現在も監督を続けています。普段の会話に加え、ボールを通じて毎日、選手と会話しています」

——教育方針は「すぐれた社会人になる前に豊かな人間性を」とお聞きしています。

「学生は保育士や栄養士などの資格を取りたいという明確な意思を持って入学してきます。知識や技術を磨くのは当然なのです。しかし、いずれも人間とかかわる仕事ですから、人から

信頼されないと自分の力を発揮することはできない。人から信頼される人間力を身に着けなければダメだということです。そこを意識して一生懸命、教育しています」

——座右の銘はなんですか。

「やはり、『信念を持って己を貫く』ということですね。自分勝手やわがままとは違い、協力すべきことは協力して、周りから信頼される行動、言動をしっかりとやっていけば、自分の思いは必ず成し遂げられると思います。周りから応援してもらえるような環境を自分から作っていくことが大切だと思っています」

——後輩へのメッセージをいただけますか。

「夢ですね。夢を持つんじゃないくて、夢を叶えてほしいです。そのための勉強や努力をしてほしいですね。大層なことを言うわけではないんですが、夢がないと勉強にも生活にも張りがない。私は大学の4年間、いい意味で勉強したと思います。勉強だけでなく、先輩や後輩、恩師、いろいろな人間関係で鍛えられた。田舎もんが都会へ行行って、カルチャーショックを受けるなどいろいろ揉まれて……。でも、それぞれが生きる糧となって今に至っていると思います。無駄なことは一つもなかったと思っています」

## ■修紅短期大学

前身の裁縫学校を1899(明治32)年から裁縫修紅女学校、そして一関修紅高等学校に改称し、1953(昭和28)年に岩手県初の家政科単科の私立短期大学として文部大臣から認可を受けて設立。昨年、創立60周年記念式典を挙行了。建学の精神は「信愛」「健康」「報恩」で、幼児教育学科と食物栄養学科の実践的な2学科を設置。「子どもたちの笑顔」と「真の豊かな食文化」の創造をめざしている。

シリーズ

## 学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

### 屋台「わんだあふろんと」 渡邊さん<sup>(経済4)</sup> モッフルで地域盛り上げ

大学前の焼きそば店の一角に火曜日と金曜日にお目見えする屋台「わんだあふろんと」=写真下=が、学生たちに人気だ。経済学部4年の渡邊由樹さんが、餅をワッフルメーカーで焼いた「モッフル」=写真右上=を販売している。



大学周辺をもっと盛り上げたいと考えていた渡邊さんが、コストがかからず、それでいてインパクトのある新しいお菓子を思

いついた。チョコミルクと抹茶ミルクの2種類で、特に女子学生に人気のようだ。

渡邊さんは、ディベートサークルなどさまざまな活動をしており、卒業後は教育関係の仕事に就きたいとのこと。「わんだあふろんと」は、渡邊さんの卒業後もビジネスサークルの仲間が引き継ぐという。

今後はモッフルだけにとどまらず、冬の新メニューも考えている。さまざまな活動をしている渡邊さんは「一つのことを全力でやり遂げ、全力で遊んで、全力で学ぶことが大切。あ、でもたまには一息」と、後輩にメッセージを送ってくれた。「起業やビジネスに関心のある人、現状に満足していない人は気軽に連絡してください」と話している。

viva.la.vida0079@gmail.com

(取材:広報委員会3年・戸澤敦子、1年・小久保啓太、南口友輝)



### 根付く「休耕地活用プロジェクト」 藤井さん<sup>(現代政策4)</sup> 日本酒で地元に貢献

2009年から現代政策学部のゼミで取り組んでいる休耕地活用プロジェクトが根付いている。プロジェクトは4班に分かれ、B班がハーブ作り、C班はカレー、D班は休耕地お花畑活用プロジェクト、E班が日本酒造りだ。E班の藤井昌嘉さん(4年)は「地域文化の結晶である日本酒は、地元の農家や酒蔵と密接に関連しており、地元に貢献できる」と、日本酒造りを選んだと言う。

「日本酒は米作りから始まる長丁場で大変な仕事で、心が折れかけたこともあった。しかしイベントでいろんな人に味わっ

てもらい、『おいしい』の一言がうれしかった」とプロジェクトをやり遂げた満足感を話してくれた。

また、女性向けのお酒造りでも多くの苦労があったようだが、「女性から『これなら飲める』と言われてうれしかった」と笑顔で振り返る。

お酒は麻原酒造越生ブリュワリー、堀越商店で購入できる。皆さんも味わってみたいかがだろう。

(取材:広報委員会3年・丹波瞭、松本拓郎、2年・郡司拓実)



### ソロのブギウギピアニストに 辻本さん<sup>(経営4)</sup> 演奏で人とつながる

「ピアノは自分の鏡」。経営学部4年の辻本貴大さんは、ピアノに対する思いをこう語る。5歳の時からピアノを始めた辻本さんが、クラシックからブギウギのスタイルに変わったのは、高校生になってからだった。テレビで演奏を見て、「自分も演奏してみたい」と、打ち込むようになった。

時にはライブハウスやイベントなどで演奏している=写真。ライブハウスでは、聴いてくれたお客さんとの出会いもある。「ピアノを通じて多くの人と





つながっている」と、ピアノの魅力を語る。

「ピアノを演奏する際は、心してかかる」と言う。自分の感情が演奏に響いたりしないようにするためだ。「ソロのブギウギピアニストとして演奏できるようになりたい」と、これからの目標を明

かしてくれた。辻本さんの今後の活躍に期待したい。

(取材:広報委員会3年・栗原勇斗、戸塚優樹、  
1年・東條梨沙、齋藤宙生、山野沙穂)

## イーグルバス株式会社さん 「安全第一」学生運ぶ

前号の「高砂熟学工業株式会社さん」に引き続き、働くシリーズ第4弾として、私たちを送迎してくれるイーグルバス株式



イーグルバスの運転士さん

会社さん(以下バスの運転士さん)取材した。

バスの運転士さんは、本学担当が約15人。会社全体では約150人いて、小江戸で有名な川越はもちろん、新宿行きや大阪行きなどさまざまなルートで運転している。本大学での仕事は朝の6時20分から。本数は1日13本前後になるという。

心掛けていることは、「安全第一」。日ごろから安全を最優先にして運転をしてくれている。「バスの中で携帯電話やスマートフォンを使っている学生が多いが、安全のためにつり革や手すりなどにつかまってくれるとありがたい」と呼びかけている。「城西大学の学生たちはマナーがよく、降りる際に『ありがとうございます』と声をかけてくれる学生が多い。とても気分がよくなる」と話してくれた。一方で、忘れ物が多いので、ゆっくりとあわせて降りてほしいそうだ。もし忘れ物をしてしまったら、学生課に相談すると見つかるかもしれないとのこと。

(取材:広報委員会3年・貝沼大輔、池田みなみ、  
1年・阿部匠、宮本祐輔)

## 経済学部・勝浦ゼミ 行政・企業と連携 地域活動多彩に

経済学部の勝浦ゼミは、地域社会との連携・協働によってゼミ生自らが課題を発見し、解決する能力を身に付けることを目的として活動している。そのためには地域活動に積極的に参加し、行政やNPO、自治会、企業などさまざまな組織と協働することが必要である。その積み重ねが、人的ネットワークの拡大、「社会人基礎力」の育成につながるという。

昨年の高麗祭では、市民活動団体やNPO法人、企業などと連携して「レモネードスタンド」を出店して募金を集め、小児がん対策のために寄付した。ゼミ生たちは小児病棟を訪問して闘病体験を聴き、小児がんの実態について学んだそうだ。

今年度は、鶴ヶ島市市民活動推進センターが主催した「HAPPYプロジェクト」というプロモーションビデオの制作に参加した。勝浦ゼミは新たな活動に前向きに挑戦している。今後

は自分たちが主催者となって地域活動に貢献したいという。勝浦信幸客員教授は「自分の殻を破って外の世界に出てもらいたい。社会の中に飛び込んで、さまざまなことに挑戦してほしい。そのためには、普段は見えないような所に目を向けることも大切」と語っている。



ワカバウオークで行われた「HAPPYプロジェクト」のプロモーション撮影

(取材:広報委員会4年・萩原優人、近藤一樹)

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています  
jukoho1@gmail.com

 **図書館だより** 図書館職員・関口 千登世さん

**図書館主催講演会を開催**

5月16日に元筑摩書房社長で現在は柏書房取締役の菊池明郎氏＝写真左＝を講師にお迎えし「本が読みたくなるカラクリ～出版社の営業ってナニ?～」をテーマにご講演いただきました。当日は学生、教員、他大学図書館員など73名が参加し、出版社の営業マンと書店員との連携によりベストセラーが生まれる話や、東日本大震災の後、被災者が必要としたのは本であったことなど、大変興味深い話を聞くことができました。さらに、



「本は知識の原点」「大学時代に本を読み込んでおくことにより、実力がつく」など、学生への励ましの言葉もいただきました。読書への関心と共にキャリア構築に関する内容でもあり、質疑応答では多くの学生が質問し、実りある講演会となりました。同時開催の「菊池氏が選んだ大学生に読んでほしい本300冊」を対象にした「学生選書」に多くの学生が参加し、読書への関心を深めました＝同右。



「本は知識の原点」「大学時代に本を読み込んでおくことにより、実力がつく」など、学生への励ましの言葉もいただきました。読書への関心と共にキャリア構築に関する内容でもあり、質疑応答では多くの学生が質問し、実りある講演会となりました。同時開催の「菊池氏が選んだ大学生に読んでほしい本300冊」を対象にした「学生選書」に多くの学生が参加し、読書への関心を深めました＝同右。

**埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)総会・記念講演を開催**

SALAは、埼玉県内の大学・短期大学図書館の相互協力の推進や図書館活動に関する調査・研究、図書館員の合同研修会を開催するなど、相互の向上を目的として活動しています。

6月13日に本学図書館において第27回総会を開催し、記念講演では本学薬学部の細谷治先生から「医療における薬剤師の活動」をテーマにお話しいただきました＝写真。講演では医薬分業の必要性や、チーム医療における薬剤師の役割を経験談や事例と共にわかりやすくご説明いただきました。なお、講演資料は城西大学機関リポジトリJURAで公開していますので、下記アドレスからご覧いただけます。

http://libir.josai.ac.jp/infolib/meta\_pub/G0000002repository\_JOS-presen2014-001



ニュース

坂戸よさこい

2014.8.23、24

**本学学生恒例参加 力強く舞う**

14回目を迎えた「坂戸よさこい」が8月23、24の両日、開かれ、約80チーム、約3500人の踊り子が祭りを盛り上げました。城西大学は経営学部学生会＝写真上＝とダンスサークル「SHOE LACE」＝同下＝が今年も力強い踊りを披露しました。

経営学部チームは23日、4会場で踊りました。午後4時過ぎ、第一会場でのパフォーマンスで、新井拓磨さん(3年)は「今年で8回目の出場となります。私たちの笑顔と元気の良さに注目してください。精いっぱい踊りますので、ご声援よろしく願います」と大きな声で沿道の観客に呼びかけ、北海道のよさこいチーム「石狩流星海」から提供された楽曲をダイナミックに披露しました。



また、「SHOE LACE」は24日、4会場で華麗なパフォーマンスを披露、お祭りに彩りを添えました。



日本語競技ディベート

2014.6

**本学研究会健闘 有名大破る**

経済学部の学生らでつくる城西大学英語討論研究部(JEDAI)は6月、日本語競技ディベートに参加、強豪校に交じって好成績を残しました＝写真。同競技は1986年に設立された全日本英語討論協会によって運営されている歴史のある競技で、東大や早慶上智など有名大学を含め40校が参加しました。2人1組のペアで1、2回戦方式によって競技。城西のAチーム(渡辺葵・板垣有哉ペア)は筑波大Aチームに勝利、Bチーム(山崎恒樹・片岡涼馬ペア)とCチーム(高坂涼太・倉果果穂ペア)はそれぞれ、青山学院大のB、Cチームに勝ちました。部長の渡邊由樹さんは「約1週間という短い練習期間で強豪大学に勝利し、結果を残せたのはディベーターたちの努力の結果。学術的な活動で城西大学が有名大にも勝てることを示せたと思います」と話しています。



## 坂戸市

### 『JAPANsg』に参加 坂戸の逸品を全国にネットで販売

坂戸市は、市内で製造販売される加工品や農産物等の特産品を広く全国にPRし、地域ブランド力の向上と事業者の販路拡大を目指す自治体運営型のインターネット通信販売サービス『JAPANsg』に参加し、現在24商品を販売中です。

このサービスは佐賀県武雄市で開設され、北は岩手県陸前高田市、南は沖縄県石垣島まで全国各地の21市町村が加盟しており、詳細は<http://japan-sg.jp>からご覧ください。

坂戸にしかないオンリーワンの地域の逸品を市内はもちろん、全国へお届けします。ぜひご利用ください。出品者を随時、募集しています。出品条件は、市内で製造された特産品等の販売または市内で生産された原材料を活用し、製造・販売される商品となります。

SAKADO 坂戸 JAPAN  
逸品保証

ここだけの逸品！  
坂戸だけの逸品！  
全国へお届けします！  
贈り物は「坂戸sg」で！

詳しくは... 坂戸sg または

Yahoo! JAPAN  
JAPAN satisfaction guaranteed  
Yahoo!ショッピングにて、  
JAPANsg 特選ストアオープン！！  
<http://store.shopping.yahoo.co.jp/japan-sg/>

※sgとはsatisfaction guaranteedの略で、満足保証を意味します。

## 東武線沿線情報

### 東上線のお得なきっぷ 「小江戸川越クーポン」!

東武東上線を使って、ぜひ小江戸「川越」へお出かけください。かつて新河岸川の舟運で栄えた川越は、江戸との文化、商業の交流が盛んに行われていました。今でも江戸の風情が残る、蔵造りの町並みや菓子屋横丁などがあり、パワースポットとなる寺社も多く点在しています。また、川越はいもの町でもあります。スイーツはもちろん、いも料理など多くの飲食店が軒を連ねています。

お出かけにはお得なきっぷ「小江戸川越クーポン」のご利用をオススメします。発売は東武東上線各駅で(川越、川越市、寄居、越生を除く)。ただし、毎年10月の第3土曜日・日曜日に行われる「川越まつり(川越氷川祭り)」の日には使用できないのでご注意ください。

詳しくは、東武鉄道ホームページをご覧ください。

## 日高市

### かわせみの里 ひだかワンデーウォーキング

大和朝廷は霊亀2(716)年、関東一円に住む高麗人1799人を集め、この地を中心に高麗郡を建郡しました。そして、平成28(2016)年はその高麗郡が建郡されてから1300年を迎えます。日高市では、先人が築き上げた歴史や文化に感謝し、未来に引き継ぐため、「高麗郡建郡1300年」を記念した事業を進めています。

そんな高麗郷の歴史と景観を満喫できるのが、11月16日(日)に開催される、「かわせみの里 ひだかワンデーウォーキング」です。コースは、「日和田山道コース(12km)」、「紅葉横



紅葉の横手溪谷

手溪谷コース(8km)」、「歴史散策ファミリーコース(6km)」に分かれており、お子様からご年配の方まで誰でも気軽に参加できます。

季節の風を感じながら、日高ならではの美しい秋色を求めて歩いてみませんか。詳しくは、日高市ホームページをご覧ください。申し込みは、電話にて日高市文化体育館「ひだかアリーナ」☎042-985-2090で受け付けます。

池袋駅から  
¥1,000円!  
東武東上線で  
「川越」へ26分!

100  
小江戸  
川越  
クーポン

編集/学校法人城西大学 広報センター  
発行/城西大学 総務部総務課  
〒350-0295  
埼玉県坂戸市けやき台1-1  
TEL049-271-7712  
<http://www.josai.ac.jp>

2014年10月発行

